

がん在宅療養フォーラム 2025大阪
『いつでも頼れるがんの情報と相談先 探す、選ぶ、そして活用する』パネルディスカッション
於:大阪医科大学 本部北キャンパス 講堂

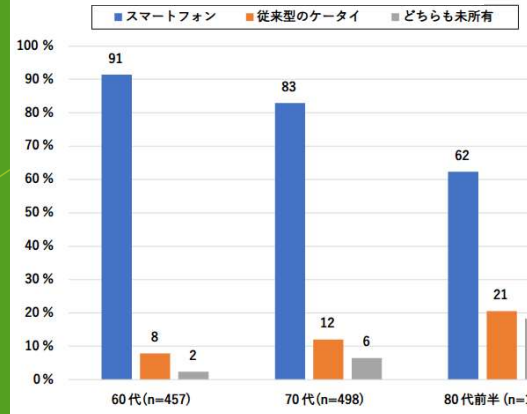
ついていけない私… (T_T)

IT音痴が情報活用のリテラシーを高めるには

NPO法人 がんと共に生きる会
理事長 濱本満紀

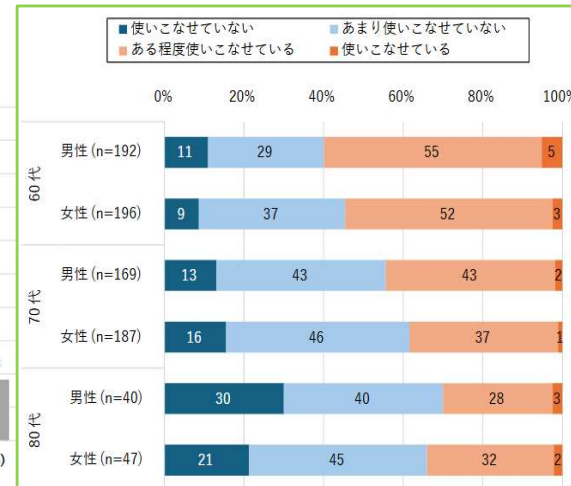
がん情報の取得にオンライン(スマートフォン)使用の比重が増す中、まずシニア世代に焦点を当ててみる..

◆60代9割超、70代8割超、80代前半6割超がスマホ所有



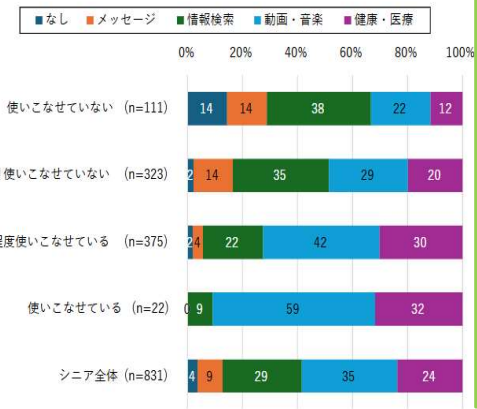
モバイル社会研究所(2024年1月調査)より

◆60代約4割、70代約6割、80代は約7割がスマホを使いこなせていないと実感



◆スマホを使いこなせていないと実感しているシニアの32%は健康・医療サービスも利用

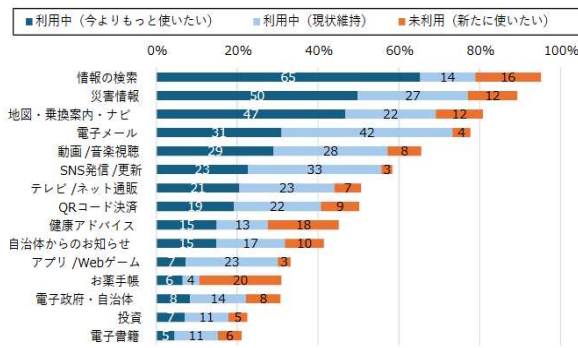
図2. スマホの使いこなしとサービス利用



モバイル社会研究所(2024年1月調査)より

◆「情報の検索」は、「今よりもっと使いたい」と「新たに使いたい」を合わせて81%。「健康アドバイス」「お薬手帳」のサービス利用意向にもシニアの関心の高さがうかがえる。

図4. ICTサービス利用意向 (n=1,130)

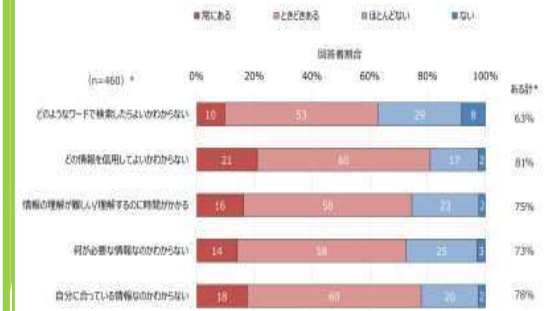


シニアのITリテラシーの向上、利用促進へのサポートが求められる

ITリテラシーに課題のあるがん患者(家族)は？ 課題と解決への患者意見・提案

◆がん医療の均てん化を目指す会 アンケート (2023年12月調査より)

図4 オンライン上でがん関連情報を収集する際の利用者側の課題

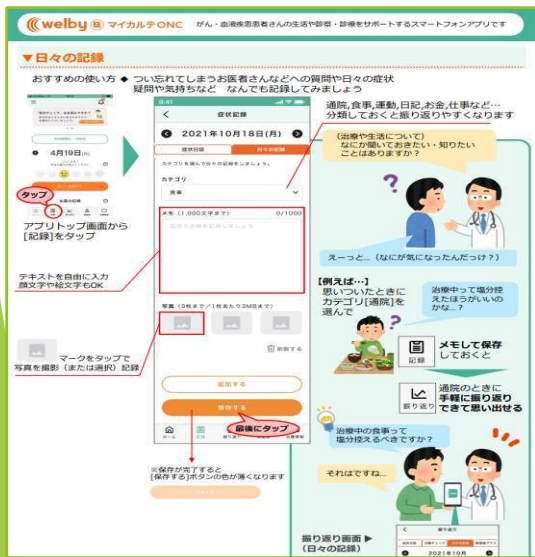


*オンライン上でがん関連情報の入手に困難を感じている/悩んでいる患者
**ある計:「中と易い」+「易いと中々ない」+「難くない」の合計割合

◆がんと共に生きる会シニア会員(7名)聞き取りより

- ・高年齢→technologyに対する苦手意識、学習エネルギーの低下
→シンプルで使いやすいツール、視聴覚への配慮
- ・経済→デバイスやINTにかかる費用の捻出
→デバイスの貸与、接続に自治体、医療機関やサポートGの支援
- ・地域格差→INTの速度やデバイス普及率の差
→特定の地域に対応した自治体、地域医療機関がIT支援を提供
- ・基本的な用語理解、操作知識の不足
→医療提供者や自治体、サポートGなどのIT教育支援
- ・医療データなど個人情報の提供
→システムの安全性やプライバシー対策の十分な説明から患者の信頼を得る
- ・SNSのエコチェン現象
→発信者の信頼性、情報の偏り、反対意見の排除現象などを慎重に見極め、医師ら専門家に相談を

新しい情報ツール、ePRO
 利用経験・検討者(患者・家族12名)の意見・提案



◆ePRO:電子患者報告アウトカム(マイカルテオンC 等)

『心身の不調を医療者と共有でき、素早い対応をもらえる』『副作用やQOLがデータ化されるので、治療方針の改善に役立った』『自分の状態の振り返りができ、自己管理のモチベーションに繋がった』
 その一方で、検討中の患者は...

- ・アプリのDLスキルもない自分が正しく入力できるのか
- ・入力困難な独居患者はどのようにするのか
- ・個人のデータが漏洩しないのか
- ・ePROの遣り取りが中心になり、主治医とのコミュニケーションが疎かにならないか
- ・リアルタイムで医療対応をしてくれないこともあると聞いた

→操作に不慣れな患者への医療機関によるサポート。
 主治医には患者との良好なコミュニケーション継続を。
 緊急時は従来の医療連絡手段を使うと心掛ける。

新しい情報ツール、対話型AIサービス
 利用経験・検討者(患者・家族12名)の意見・提案

◆対話型AIサービス(ChatGTP、Grok ...ディープシータ)

『治療・副作用対策・医療施設など、がん医療全般に関する検索が瞬時にできる!!』と歓迎の声。
 ...が、万能ではない?と。

- ・情報が最新でないことがある (古いデータをAIが学習) ★
- ・情報が正確でないことがある (誤情報をAIが学習) ★
- ・情報をうのみにし、自己判断だけで物事を進めてしまいがち (AIは診断ツールではない) ★
- ・耳触り良い代替医療に走りがち (あります≠効きます)
- ・提供される情報が多量で、かえって混乱する ★
- ・ネットの噂や個人の体験談に流される ★
- ・こちらの感情を理解してくれる訳ではなかった

→エビデンスの確認、医療チームの意見の尊重、多様な視点、情報源の比較、プライバシー管理の徹底。

→【質問ポイントの提案】
 シンプルな文章、トピックはひとつに絞る、条件を細かく指定、質問を繰り返して回答の精度を高める



がん患者がデバイスやツールを正しく使いこなして情報を活用するには、医療者とのコミュニケーションや支援体制の充実が不可欠。自助努力しながら、多方的サポートも受けられれば、【IT音痴の患者】も臆さずに適切な治療を目指すのではないかと。(^^)!